新刊図書案内13

開館時間　昼休み　一二：三〇～一三：〇五
放課後（火・木・金）
一五：一〇～一六：三〇
行事等の場合は休館します。

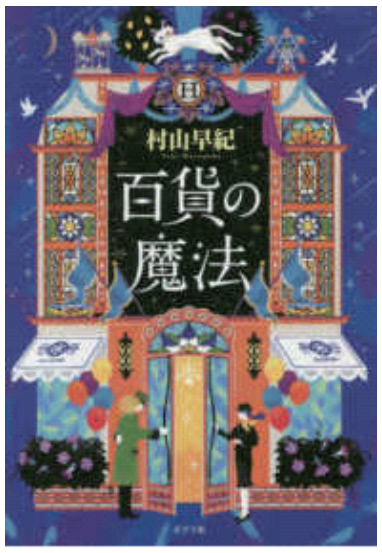
君の嘘と、やさしい死神

青谷真未

高校二年の百瀬太郎は同学年の美園玲と運命的に出会う。美少女なのにクラスメイトとどこか距離を置いているクールな玲に、なぜか百瀬はなつかれる。幼少期のトラウマで「嫌だ」と言えない性格も手伝って、百瀬は強引に文化祭の準備を手伝わされる羽目に。「ある作戦」を実行する二人は近づく気持ち、襲ってくる過去の酸っぱい逃げ出したくなる。涙が溢れて止まらない。二人の温かい恋の行方は？　極上の恋愛小説。

百貨の魔法

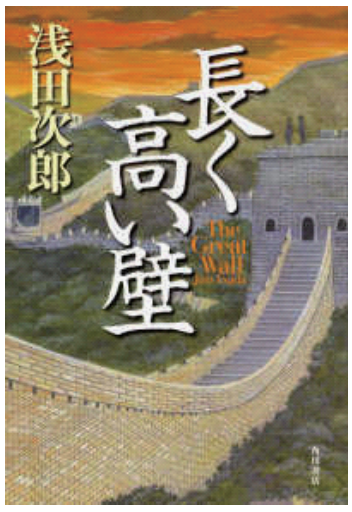
村山早紀



時代の波に抗しきれず、「閉店が近いのでは？」と噂が飛び交う星野百貨店。エレベーターガール、新人コンシェルジュ、宝飾品売り場のフロアマネージャー、テナントのスタッフ、創業者の一族らが、デパートを守ろうと、今日も売り場に立つ。百貨店で働く人たちと館内に住むと噂される「白い猫」が織りなす、魔法のような物語！

長く高い壁

浅田次郎



1938年秋。流行探偵作家の小柳逸馬は、従軍作家として北京に派遣された。突然の要請で前線へ向かうことになった。迎えに着いた第一分隊は、検閲班長の川津中尉と共に、万里の長城、張飛嶺。そこで待っていたのは、戦場に先発隊員死亡という大事件だった。なぜ、保身のための軋轢、軍ならではの論理――。従軍作家の目を通し、日中戦争の真実とが、いま、明かされる。「戦争の大義」とは何かを真摯に捉え、胸に迫る人間ドラマ。

架空の犬と嘘をつく猫

寺地はるな

「あんたは社会にとって、なんの役にも立ってない子」そう言われて育った羽猫家長男の山吹。だけど彼が大人になり、みんなの“嘘”が解かれたとき、本当の家族の姿が見えてくる。今大注目の作家寺地はるなが描く、ちょっと変わった家族小説。これは、それぞれが破綻した嘘をつき続けた家族の、素敵な物語――。

「本能寺の変は」変だ！

明智憲三郎

「秀吉がねつ造し、軍記物に汚染された戦国史を、今一度洗濯いたし申し候」。37万部突破の『本能寺の変　431年目の真実』の著者、明智憲三郎がさらなる歴史捜査を通じて、より解り易く「本能寺の変」の真実を解説した歴史ドキュメント！「ハゲだから謀反って変だ！」「歴史の流れ無視って変だ！」「信長の油断って変だ！」等々、まだある驚愕の真実に迫る！

かがみの孤城

辻村深月

どこにも行けず部屋に閉じこもっていたこころの目の前で、ある日突然、鏡が光り始めた。輝く鏡をくぐり抜けた先の世界には、似た境遇の7人が集められていた。9時から17時まで。時間厳守のその城で、胸に秘めた願いを叶えるため、7人は隠された鍵を探す――

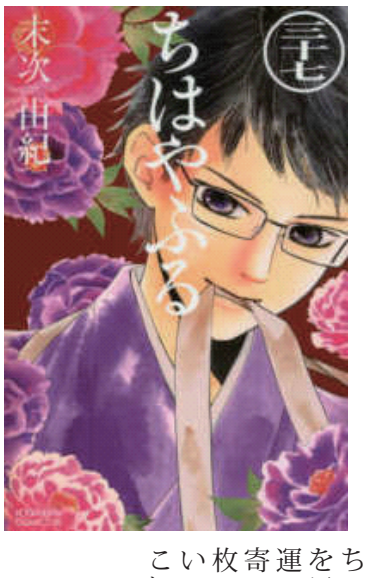
たそがれビール

小川糸

パリの蚤の市で宝物探しに奔走し、モロッコでは夕日を見ながら屋台で舌鼓。旅先でお気に入りのカフェを見つけては、本を読んだり、手紙を書いたり、あの人のことを思ったり。年末に帰ってきた自宅ではおせちカレンダーを作り、新しい年を迎える準備を整える。ふとすると忘れがちな、当たり前のことを丁寧にする幸せを綴った大人気日記エッセイ。

ちはやふる〈37〉

末次由紀



名人・クイーン戦予選、東日本予選・準決勝。千早は強豪・富士崎の山城理音と、太一は須藤と、息もつけぬ戦いを繰り広げる。不運が重なり形勢不利。しかし原田先生のはからいで新の西日本予選突破を知った千早と太一は、自分たちのかるたを思い出す。運命を引き寄せろ。一枚も譲れない戦いがここにある――